

# 実例から学ぶ 郊外型住宅(1)

図・文/本多和夫

◎開取りの実例を見て自分の希望や夢を取り入れる。

1月号からいまままでに各部屋の大きさ位置、つながり方、建物の配置について考えてきましたが、今月と来月は、外国や日本の実例を見て、夢のあるプランや違った生活、現実的に都市生活を解決している例を見ていきます。今回は敷地の大きいものとして郊外型のプランの例で考えていきます。

## ●週末住居

①落水荘と呼ばれるこの住宅は、アメリカのシカゴ郊外に60年前にF・L・ライトにより設計されました。現在もこの川の上に建ち続け世界中に建築のロマンを送り続けています。

森の中の川に大きく張り出した、鉄筋コンクリートの建物で、それはあたかも川の上に昔から浮いているように構想さ



①川の上に浮いているように構想された落水荘は、自然と一体化した建築。

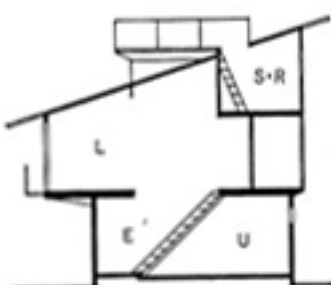


3階平面図

れたものです。自然石を外壁と内部に用いて仕上げを同一にして、また川床の巨石も暖炉の前に置いた上っています。この空間はまさに自然の中にいだかれていたかのような自然と一体化したものです。



2階平面図



②立面図 地面から生えてきたような、環境と調和した住宅。

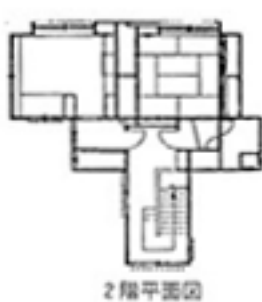


2階平面図

②軽井沢の家  
森の中に建つ小さな家です。単純な片流れの屋根を持つ部分は、一まわり小さなコンクリートの台で支えられているように見えます。それは地面から生えてきたように見え、木の外壁が環境に調和しています。自然と心のなごむ、気持ちの良い空間が出来ています。都市生活者の休養に週末に利用出来たらなんと素晴らしいことでしょう。



1階平面図



ゆとりの家(1) 1階平面図



傾斜地を生かした住宅 外観パース



①平面図

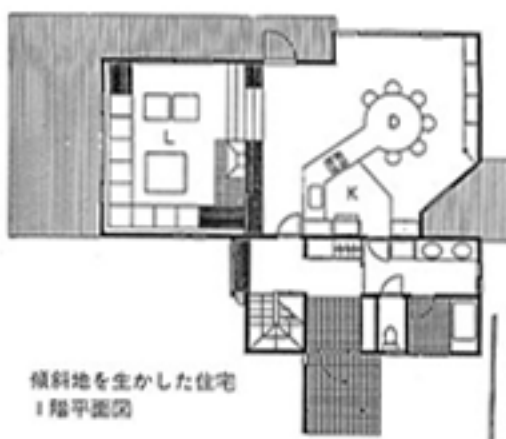
## ●傾斜地を生かす

③ガラスの家  
広大な敷地の中に建つガラス張りの家です。ブライバシーは庭の緑によって守られています。建物は、鉄骨造にガラスを入れた明快な構成です。自然の変化に対立し、そのデザインの明快性は季節感を超越した美感覚を持っていると言われています。

伊豆の海を見下す斜面に建つ家です。敷地の傾斜をそのまま利用して低い所に居間、はもートル上った所にはダイニングキッチンを連続させて海の眺望を大きく得ることをねらっています。居間の上部は吹抜けとなつて2階ホールや寝室とつながっています。傾斜を生かすことで住空間に3層分の変化が得られ、流動感のある楽しい構成となっています。



2階平面図



傾斜地を生かした住宅 1階平面図



## ●RUSG家(1)

既存住宅から渡廊下で結ばれた、茶室をもつ和風住宅です。和室・広縁・廊下は全て床を畳で敷き、壁は塗り壁(京シユラク)。天井は杉板張りの3つの素材で統一され、静かで落ち着いた空間になっています。和室続き間は客間としても、第2の居間としての茶の間としても利用出来るものです。広縁を通して庭園とつながり大きな開口が充分に自然をとり入れられた配置になっています。

● ゆとりの家 ②

ニューヨーク郊外に建つアメリカの住宅です。中庭を持ちその廻りに廊下を配して各部屋の動線を明快にしています。居間・食堂を2階に配して素晴らしい景観を充分に取り入れています。又家族で十分使いこなせるように設計されており、友人・知人とのパーティーを行うときに一体となる居間・ダイニング・ホールが用意されているのが特色です。日本的な自然との融合があり、広大な自然にみごとに調和しています。



ゆとりの家②平面図 設計：宮村順三

● 農村住宅

日本の農村によくみられる平均的な住宅です。1階には和室続き間と南面した玄関と縁側を持ちます。玄関のそばには応接間を設けてあり、その奥には台所・風呂・トイレが配置してあります。敷地には関係なく画一的に共通した間取り、外観を構成しており、家族のいる茶の間は、中廊下をはさみ北側に面しています。住む人の快適性よりも客寄せ時のことを主眼に、空間を一番良い場所にもつてくることが多いようです。



2階平面図



農村住宅1階平面図

用語辞典 「ライトコート」

採光のための中庭をいい、日本では光庭または光井といわれます。敷地が南北に長くて各部屋に光があたらない場合や、隣家に囲まれて光が回らない場合などに、建物の中に屋根のない庭をつくって採光をはかるのがライトコートです。ライトコートに面して部屋を配することによって、上方からの光が各部屋に十分な明るさをもたらすと共に、内部からの視線もライトコートに向かうことで視覚的に空間が広がります。家の中にありながら外部空間でもあるライトコートは、自然を暮らすの中に取り込む場所でもあります。光をさえぎらないように一本あるいは数本の樹木を植えれば、光と風が樹影に変化を与えますし、それが落葉樹であれば、四季の移り変わりを感じさせて、生活にうるおいをもたらします。

ライトコートは、必ずしも広いほどよいというものではありません。あまり広いと間がぬけて親密度の低い空間になってしまうこともありま。また、家の中にある外部という点からも、排水には十分な考慮が必要で、夏の太陽の強い照り返しを防ぐことも大切で、その点でも植樹は役に立つでしょう。

ライトコートは、古くは桂離宮の松琴亭に見られ、また京都の町家では間口に比べて深い奥行き敷地のために、いたる所に光庭がとられ、光と風を引きこみ住空間を豊かにしている例が見られます。

現代の、特に都市型住宅では、少なくなりつつある自然(光・風・緑)を取り入れ、内外空間を一つにして楽しむために、ライトコートは上手に利用したいものです。